藤沢
エコネット

２０１３年４月１日
第２２７号

藤沢環境運動市民連絡会議
（略称）藤沢エコネット

http://members3.jcom.home.ne.jp/fujisawa_econet/
事務局　〒252-0816 藤沢市遠藤 849-9 青柳
☎／ＦＡＸ　0466－87－4922
e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp

主な記事
- 鈴木市政、２年目の環境施策は
- 第２回ふくしまっ子リフレッシュ湘南
- モニタリングポストはインチキか？
- 日本大学シンポ　・放射能測定値

鈴木市政、２年目の環境政策は

鈴木市政１年目は前市長からの事業の継続で、とりたてて新しい事業はありませんでした。その中で評価できるのは、「有機質資源再生センター（堆肥化センター）」を２年後に廃止を決断したことです。稼働すればするほど赤字が増え、悪臭がひどくなった施設です。

市民から「分別が大変で、ゴミ袋の値段が高い、負担を軽くして」との要望のゴミ処理有料化については残念ながら見直しが行われません。

毎年実施している「環境フェア」について今年は開催が冬の時期になりました。今後は環境啓発の事業として位置づけ、優先して会場を確保し開催すべきです。

平成２５年度に予算化された事業は、大気汚染防止費（ＰＭ2.5 測定器を１台購入し常時監視調査）、リサイクルセンター費、地球温暖化対策関係費（エネファーム設置補助事業）、自然環境実態調査の実施、公害防止費、緑地保全（里地・里山保全など）があります。

また放射能汚染対策では学校給食の食材分析調査を１日一品目と、一週間分丸ごとの検査実施、公園、学校などの公共施設の空間線量測定を継続します。保護者から要望されている校庭の土などの土壌汚染調査と表土のはぎ取りについては実施の予定はありません。

新たに、生ゴミのバイオマス化施設調査費が盛り込まれました。バイオマス化について検証するために今年度２ヶ所の自治会でバイオマス化品目を分別・収集する試行実施を６月から行う予定ですが、すでに市民は生ゴミについて、コンポストやぼかし、電動生ゴミ処理機などでゴミを減らし活用するとりくみを行っています。燃やすゴミをいかに減らすかは市民に情報を十分に提供し、共有して市民といっしょにゴミ減量にとりくむことが大切です。一方的な行政施策の押しつけで負担が増え、多大な税金の投入になっては、市民の理解も協力も得られません。

片瀬漁港周辺の生態系の調査など課題も残されています。

藤沢市の環境施策は市民と共同で進め、市民の健康、安全な暮らし、豊かな自然を守る立場で進めることが求められています。藤沢エコネットはこれからも多くの市民や団体の皆さんと様々な問題や課題に取り組み、情報発信を続け、市にも提案を続けていきたいと思います。　（N・K）

馬酔木（アセビ）（アシビともいう）有毒性物質を含んでいる

日本大学「国際シンポ」２／２２～２３開催

「多重連携システムによる超防災型持続可能な地域環境の実現と日本大学の役割」

というシンポジウムに参加しました。

日大の糸長浩司教授が委員長を務め、スウェーデンやオーストリアからの大学教授も参加された国際シンポで２日間にわたり開催されました。

★2011.3.11 東日本大震災被害、福島第１原発事故の被害にみまわれた中の復興、再生が長期的なテーマであり、このテーマを真摯に受け止め被災地域の人々に寄り添いながら、解決のための研究提案、計画や実践の提案、多面的な支援と大学の教育や研究のあり方が大学に問われている。福島県にある工学部は活動の中で復興再生の展望を地域社会に提示し福島県再生に向けた大学の役割を果たしている。

生物資源科学部は原発被災地の飯舘村、川俣町での人々、子どもたちへの持続的支援と具体的な復興再生提案を示し、外部、内部被爆リスクの低減政策の提言も行ってきている。さらに津波被害の大船渡市等での高所移転計画支援等を具体的に教員、学生参加で進めている。

生産工学部、理工学部では漁村再生、防潮堤再生に関してのより効率性、環境性、文化性に配慮した復興提案、総合工学的手法の提案を行い復興地域、政策への役割を果たしてきている。

このような前置きで１７に及ぶ研究・実践の発表とシンポが行われました。ここでは内容は略させていただき、報告の題などを記してみます。

- 「イグネ」と呼ばれる屋敷林の再生復興の検討
- 三陸海岸線の多重防災デザインに取り組んだこと
- エネルギー自給による脱原発と地域経済再生に向けた取り組み＝農村型発電を協働の力で。
- スウェーデンのトンデル教授はチェルノブイリ事故後の低線量の被爆の実態と克服のシナリオを報告
- 今中哲二京都大学教授は、福島原発災害の実態と克服の展望と題して報告などでした。
- 「飯舘村後方支援チーム」を立ち上げて支援活動を行っている糸長教授は「ふくしまっ子リフレッシュｉｎ湘南」の顧問も引き受けて下さり応援をいただいている関係もありこのシンポに参加してとても有意義でした。

（日比　遥）

第２回ふくしまっこリフレッシュ in 湘南

～３２人の福島の親子を藤沢に招待～

３月 27 日から４泊５日、「福島の子どもたちとともに・湘南の会」は、南相馬市、福島市、飯館村の親子 32 人を江の島とこどもの国へ招待しました。

曇り空の中、江の島コッキング苑の咲き誇る椿を観賞してから展望灯台に、広い相模湾の大海原に歓声をあげました。新江の島水族館では、大きなエイが頭上を泳ぐ姿や、イルカショウに見入っていました。サメに触った子もいました。

（水族館で水槽に見入るふくしまっ子）

今回は自由日を設け、各自憧れの江の電に乗って、鎌倉八幡宮、ボタン園など、鎌倉見物などを楽しみました。医療機関に行き、気になっている甲状腺の検査をする人もいて、５人が受けました。

こどもの国は、例年になく早く咲いた桜が満開で、まるで桜の園に迷い込んだようでした。バーベキューで舌鼓を打ち、大人気のトランポリンやサイクリングに興じ、新しい友達ができたと喜んでいました。

南相馬市役所前の空間放射線量測定値が、２月平均１時間当たり 0.3 マイクロシーベルトを超え、藤沢市内ならすぐ除染の対象になり、年間許容量１ミリシーベルトを超える値です。市役所周辺は民家より低い方で、屋外はこの２倍３倍４倍は随所にあると聞いて愕然としました。

特に幼児・児童を抱えるお母さんたちは、外で遊ばせないよう気を使っていると話していました。外に出ても、線量計を常に持ち、１時間ぐらいで家に入るとか気をつけているとのことです。幼児は首から放射線の累積計を下げているとのことですが、遊ぶのに邪魔なのでなかなか測定しにくいようです。

今夏も開催しますのでご協力お願い致します。（青柳）

モニタリングポストはインチキか？

～似顔絵描き　太めのリリー様より投稿～

２月に、南相馬の市民団体「安心安全プロジェクト」の吉田邦博さんのお話を伺う集まりをエコネットが主催されたので参加しました。

高線量の「黒い物質」問題が出ていた頃です。そのときも感じたのですが、モニタリングポスト（以下ＭＰと記す）にしろ、除染にしろ、放射線量は「この地域の値」という言い方はできないものなのです。その観点から、私は違う見解を持っています。

また、「福島は危険」「被災地の被災材の処理は現地から出さずに行うべき」という、環境系の市民団体の意見にも疑問を感じています。

なぜ、他の問題が頭から飛んでしまったように放射線の危険ばかりを言うのか。なぜ、今までの危険な問題には見向きもせず暮らしてきた人達がこの問題だけに過敏とも言える行動をとるのか。

私はずっと原発には反対でしたが「原発さえなければ」とは思いませんし、また、原発周辺の暮らしが、今も「加害」「被害」だけの関係とは思いません。むしろ、全部含めて差別の問題ではないかと感じています。

まず、よく言われる「ＭＰはそこだけ除染して数値を下げている」というのは２重の誤解が影響しています。

１：そもそもＭＰは「その地域の線量を知るためのものではなく数値の変化を見るためのものだから、細工をして数値が下がったように見せる必要もない。

２：ポストは往々にして公共的な場に置かれていて、除染も公的施設から進めるので結果として「先に除染された所を測る」ことになっている。この件では１年前の４月１５日に福島県内の数カ所でＭＰと自分の測定機の数値を比べた記録があるので見て下さい。

私の測定器はガイガーFUKUSHIMAで、基本的に地上約１ｍで測っています。

A：文科省が発表しているその日のＭＰ数値。地上１ｍを計測。　B：そのときの自分の計測器数値

■飯舘村役場前

A：計測値は、実施は村役場とは道路を隔てた敷地内にある計測器の数値。　数値は現場では表示しない。しかしここは、元の住民の方が村内見回りに出る拠点になっている。

C：飯舘村役場の玄関前に東京のシステム会社の寄付で地上50cmの数値を表示する計測器が設置。現在は人通りがない。

A：0.93μSv/h（以下μSv/hを省略します）

B：0.7～0.78（Cと同じ場所で計測）

C：0.7～0.78　Cから約100m離れた横断歩道前で　1.7～2.2　5～6m離れたコンクリ敷地駐車場で　1.02　隣にある「いちばん館」敷地内約1.7～2.2　室内では0.2～0.3

■福島市信夫山公園

市内の中心地。まだ桜の開花が遅れていたけれど花見祭開催中で屋台などが出て人通りも多かった。

・子供の森公園（数値一時使用禁止になったところ。周りに樹木多し）

A:（地上50cm）1.678　B:（地上約1m）1.3～1.7

・山に登る通路（落ち葉はなく、枝も刈られている）　B:0.9くらい

・花見祭の屋台村　B：0.5くらい（整地効果か？）

■郡山市開成山公園

文科省が「郡山市の数値」と発表している市役所と道路を隔てた目の前。この総合運動場にもＭＰあり。運動競技場は周りを囲って、除染作業中らしかった。

A:0.49

B:周りの植え込みなど周遊道路 0.53～2.23（少し動いてもすごく数値が上下）

ポイントは・少し動いただけでも、少しの時間の違いでも数値は変わる。

・飯舘村役場前は、自衛隊が徹底除染して数値が低い。公的ポストのある場所は環境省のそれなり除染で、役場前より高い数値。・福島市の信夫山のように、周りの道路よりポストの数値の方が高いところもある。

・ＭＰの形式にも、足元を広くコンクリ台座で”遮蔽”したものと自立型（？）がある。

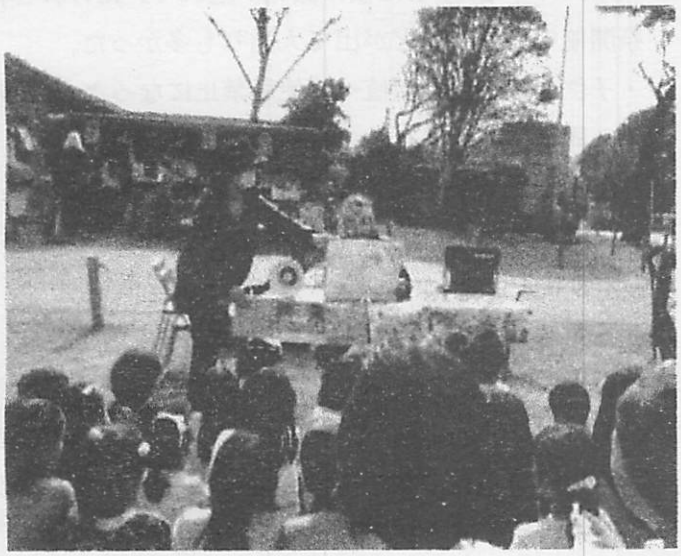
なので、メディアがまるでこれを気温か何かのようにそのまま毎日公表しているのが不思議でなりません。「決してこの地域の数値を代表するものではない」と書いて誤解を防ぐ必要があると思っています。

福島民報にはその旨メールしましたが反応はありませんでした。

イマジン湘南まつり３１１からを生きる知恵

3月10日、突風が時折吹きすさぶ中、イマジン湘南まつりが遊行寺目指してサンパール広場からの「おさんぽデモ」で始まりました。　３．１１から2周年、復興が進まぬ重い現実を見据え、遊行寺では選挙トークやライブまたフードブース、ワークショップ、物々交換、販売展示ブースなど多彩に繰り広げました。

「福島の子どもたちとともに・湘南の会」では、原発事故で被災した子どもを描いた紙芝居を、福島の被災者自らが披露しました。（青柳）



市民による自主測定
(HORIBA で測定)

藤沢本町駅　路面タイル
　0.066μSv/h　(3/10 曇)
藤沢本町駅売店前
　0.057μSv/h　(3/10 曇)
遊行寺境内
　0.050μSv/h　(3/10 曇. 強風)
湘南台ローゼン前タイル
　0.065μSv/h　(3/16 晴)
サンパール広場タイル
　0.074μSv/h　(3/16)
円行公園遊具下
　0.044μSv/h　(3/19 晴)

〈藤沢エコネットニュース２２７号〉

ECONET INFORMATION

「モンサントの不自然な食べもの」

映画上映は　神奈川県母親大会分科会
4月２０日（土）10:00-　藤沢市民会館
大会費用のほか映画協力費３００円
主催／問合わせ　実行委員会 045-641-8815

武田薬品のバイオ事故を究明する市民集会
4月6日（土）14:00-　藤沢市民会館第２会議室
武田問題対策連絡会 ☎ 09063175547

東北観光物産プラザがオープン！

フジサワ名店ビル中２階に移転（４／５）
東北の宮城、岩手、福島の物産を販売します
今までは遊行通りにあったお店で、市から委託され藤沢商工会議所が運営します。被災地からの避難している方も店員として働いています。

★放射性物質による健康被害について学ぶ公開研究会

講師　西尾正道先生（元北海道がんセンター院長）
「放射能とからだ～甲状腺異常をはじめとする内部被爆について」・情報交換等
5月１１日（土）10:00-12:30
日本大学本館６４講義室

主催：日大 生物環境工学科
協力：福島の子どもたちとともに・湘南の会

藤沢エコネットから

会費・購読料の納入お願い致します
ゆうちょ銀行　(9900)　店番　(029)
当座預金 0046501 フジサワエコネット
(従来の振込方法も利用できます)
会員募集＝年会費・購読料→３０００円

事務局会議　4月１１日（木）15:00～
市民活動推進センター

《編集後記》桜が早めに咲き和むことができた。入学式までもつかな。鈴木市政２年目になり市の機構も少し変わり新たな気分か？タコ足の市庁舎が早く統合できるといいが、本格的に建設はこれからか。今のままでは市民も職員も不便なのだから。（H）